

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価 2019年度、名古屋市内の建築物の環境性能評価マニュアル(2019) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)昭和区南山町PJ 新築工事	階数	地上3F/地下1F
建設地	愛知県名古屋市昭和区南山町9番1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第一種低層住居専用地域、準防火地域、防火指定なし	平均居住人員	60 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2022年6月1日
敷地面積	1,592 m ²	作成者	
建築面積	781 m ²	確認日	2022年6月1日
延床面積	3,026 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.3 ★★★★★★☆☆☆☆ ★:S:★★★★★ A:★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C 環境品質 G 環境負荷 L	☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆ 60%:30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.6	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 「杜に囲まれた邸宅」をデザインコンセプトに緑に囲まれた南山町の街並みに応じる佇まいを目指した。南側の風致地区内では一部条例により既存の樹木を保存する計画となっている。外観はベージュ系のアースカラーでまとめ、南山の街並みに溶け込むように工夫している。また、南山町の歴史ある建築物の特徴を継承した連続する縦長窓やマリオンといった特徴もデザインに取り込んだ。	その他	
Q1 室内環境 専有部分について、断熱等性能等級4とし、F☆☆☆☆の建材を採用するなど、室内環境の向上に配慮した設計としている。	Q2 サービス性能 居室の天井高を2.5m以上とし、階高も十分に確保した設計としている。また、住宅性能評価における劣化対策等級3を取得し、建物のサービス性能の向上に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 標準的な配慮を行っている。
LR1 エネルギー 断熱等性能等級4、建物全体のBEE=0.92とし、省エネルギー性に配慮した設計を行っている。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材の採用を積極的に行い、また、LGST地の採用など、資源・マテリアル項目について配慮した設計を行っている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂排出率62%とし、光害対策にも配慮するなど、敷地外環境の向上に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)昭和区南山町PJ 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	3.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ 3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。